

令和8年1月7日

## 「第10回文化庁翻訳コンクール」受賞者決定及び 「国際文芸フォーラム 2026」の開催について

～王谷晶氏・小川哲氏・桐野夏生氏・柚木麻子氏ら、豪華作家陣が集結！～

文化庁は、日本の文芸作品等を海外に発信していくために重要となる翻訳家を発掘・育成する登竜門として、翻訳コンクールを実施しております。

この度、有識者による審査を経て「第10回文化庁翻訳コンクール」の受賞者を決定しました。

また、本コンクールの授賞式とあわせ、本コンクールの受賞者であり世界的に活躍する翻訳家サム・ベット氏らに加え、王谷晶氏、小川哲氏、桐野夏生氏、柚木麻子氏ら世界で注目を集める作家等を招いて、文芸作品等の翻訳やグローバルビジネスをテーマとするシンポジウムを東京で開催しますので、お知らせします。

※本シンポジウムはこれまで「BUNGAKU DAYS」の名称で実施してまいりましたが、今回より「国際文芸フォーラム」へと名称を変更しました。

### ■第10回文化庁翻訳コンクール

#### 1. 応募数

第10回を迎える本年は、現代文学部門（英語）、現代文学部門（スペイン語）、古典文学部門（英語）の3部門のコンクールを実施し、昨年度から約2倍となる438人に応募いただきました。

【現代文学部門】	英語	325名（前年132名）
	スペイン語	70名（前年はドイツ語46名）
【古典文学部門】	英語	43名（前年43名）

#### 2. 受賞者

＜現代文学部門：英語＞ 課題作品：井上荒野 著「二十人目ルール」

最優秀賞（1名） Chelsea Marie Bernard（アメリカ）

優秀賞（2名） Joseph Sabatino（アメリカ）

Nicolas Keen（イギリス）

＜現代文学部門：スペイン語＞ 課題作品：井上荒野 著「二十人目ルール」

最優秀賞（1名） Mikel García Alija（スペイン）

優秀賞（2名） Silvia Liaño Pons（スペイン）

Alberto Millán Martín（スペイン）

＜古典文学部門：英語＞ 課題作品：井関隆子 著『井関隆子日記』（深沢秋男 校注）

最優秀賞（1名） Ryan Hintzman（アメリカ）

優秀賞（2名） 伊藤欣司（日本）

Matthieu Felt（アメリカ）

※受賞者の翻訳作品および審査員講評は、文化庁翻訳コンクール公式サイトに掲載しています。

<https://www.jlpp.go.jp/competition10/>

## ■「国際文芸フォーラム 2026」

### 1. 趣旨

本フォーラムは、日本の多様で豊かな活字文化を世界へ届ける基盤となる「翻訳家の発掘・育成」、および「文芸作品等のグローバル展開」の機運醸成等を目的としています。

節目の第 10 回を迎える「文化庁翻訳コンクール」では、現代文学部門（英語・スペイン語）および古典文学部門（英語）において、優れた翻訳スキルと作品への深い洞察を備えた翻訳者が選出されました。このたび、その功績を称え授賞式を執り行います。

続くシンポジウムの第 1 部では、作家の王谷晶氏、柚木麻子氏、王谷作品等の翻訳家であるサム・ベット氏、柚木作品等の翻訳家であるポリリー・バートン氏（ビデオメッセージのみ）を迎え、作家と翻訳者の「共鳴」が作品に与える力についてトークセッションを行います。第 2 部では、世界的に活躍する桐野夏生氏、国内外から注目を集める小川哲氏の両作家に加え、日本を代表する文芸エージェントの森健一氏が登壇。グローバルビジネスとしての文芸の可能性について議論を深めます。

### 2. 開催日時

令和 8 年 2 月 12 日（木） 15:00～18:15（開場：14:00）

※18:30～20:00 関係者交流会（関係者のみ）

### 3. 場所

御茶ノ水ソラシティカンファレンスセンター sola city Hall（2 階）

（東京都千代田区神田駿河台 4-6）※定員：400 名（入場無料）

### 4. プログラム（予定）

※敬称略、50音順

（1） 第 10 回文化庁翻訳コンクール授賞式（15:00～）

（2） シンポジウム第 I 部（16:00～）

「作家×翻訳家の共鳴力～世界に向けて『推し』を叫ぶ～」

【第 I 部】王谷晶（作家）、サム・ベット（日本文学翻訳家）、柚木麻子（作家）

モデレーター：鴻巣友季子（翻訳家・文芸評論家）

特別ビデオメッセージ：ポリリー・バートン（日本文学翻訳家）

※ポリリー・バートン氏は第 1 回翻訳コンクール最優秀賞受賞、サム・ベット氏は第 2 回翻訳コンクール最優秀賞受賞。

（3） シンポジウム第 II 部（17:15～18:15）

「文芸のポテンシャル～作家と語るグローバルビジネスのフロンティア」

【第 II 部】小川哲（作家）、桐野夏生（作家）、森健一（株式会社タトル・モリ

エイジェンシー代表取締役社長）

モデレーター：新井宏（株式会社文藝春秋 ライツビジネス局長）

（4） 交流会（18:30～20:00、関係者のみ）

## 5. 一般参加（傍聴）申し込み方法

下記申込フォームよりお申込みください。＜申込締切：2月6日（金）>

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScBKg4gJWeckS13S6r3I\\_Ay8Aoe75YwKGohCoDMae8BieP47A/viewform](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLScBKg4gJWeckS13S6r3I_Ay8Aoe75YwKGohCoDMae8BieP47A/viewform)

QR コードはこちら↓



## 6. 取材について

会場での取材を希望される報道関係者は、必要事項（別添）をご記入の上、  
2月10日（火）までに本事業事務局広報課（下記 E-mail）へご連絡ください。

文化庁「活字文化のグローバル展開推進事業」事務局 広報課  
PR@vipo.or.jp

＜問い合わせ＞	文化庁文化経済・国際課
	担当：堀口、森田、吉川
	電話：03-5253-4111（代表）
	03-6734-4898（直通）
	メール：cbx-pj@mext.go.jp

# 文学と翻訳が描く グローバルビジョン

「BUNGAKU DAYS」は新名称「国際文芸フォーラム」へ——。  
「第10回文化庁翻訳コンクール」の授賞式および  
シンポジウムを開催します。

文化庁翻訳コンクール授賞式記念

# 国際文芸フォーラム 2026

Commemorating the Award Ceremony for  
the Japan International Translation Competition

Japan International  
Literary Forum 2026

15:00–15:50

第10回文化庁翻訳コンクール授賞式

16:00–17:00 シンポジウム第Ⅰ部

作家×翻訳家の共鳴力

～世界に向けて「推し」を叫ぶ～

柚木麻子 作家

王谷 晶 作家

サム・ベット 日本文学翻訳家

モデレーター：鴻巣友季子 (翻訳家、文芸評論家)

※特別ビデオメッセージ：ポリー・パートン (日本文学翻訳家)

17:15–18:15 シンポジウム第Ⅱ部

文芸のポテンシャル

～作家と語るグローバルビジネスのフロンティア～

桐野夏生 作家

小川 哲 作家

森 健一 株式会社タトル・モリ エイジェンシー  
代表取締役社長

モデレーター：新井 宏 (株式会社文芸春秋ライツビジネス局長)

司会進行：米倉紀之子 (俳優)

※イベント終了後、18:30–20:00は関係者交流会を開催

応募方法の詳細については、文化庁翻訳コンクールの  
ウェブサイトをご覧ください。 <http://www.jlpp.go.jp>



2026

2/12 THU 15:00  
[14:00 開場]

御茶ノ水ソラシティ  
カンファレンスセンター  
sola city Hall (2階)

## シンポジウム第Ⅰ部

# 作家×翻訳家の共鳴力 ～世界に向けて「推し」を叫ぶ～



柚木麻子  
Yuzuki Asako

1981年、東京生まれ。2008年「フォーゲットミー、ノットブルー」でオール讀物新人賞を受賞し、2010年に同作を含む『終点のあの子』でデビュー。2015年『ナイルパーチの女子会』で山本周五郎賞を受賞。2017年に発表した『BUTTER』は世界35ヶ国以上で翻訳が決定し、2024年に刊行されたイギリス版（ポリー・バートン訳）は大手書店チェーンWaterstonesが選ぶ「Book of the Year 2024」や、「The British Book Awards 2025」（Debut Fiction部門）などを受賞。ほかの作品に『ランチのアッコちゃん』『あいにくあなたのためじゃない』などがある。



王谷 晶  
Otani Akira

1981年、東京都生まれ。2020年刊行の『パパヤガの夜』は第74回日本推理作家協会賞・長編および連作短編集部門の候補作に選出。2024年に刊行された、サム・ベット翻訳による同作の英訳版（米国版）はロサンゼルス・タイムズ紙で「この夏読むべきミステリー5冊」に挙げられ、同年に刊行された英国版は翌2025年、クライム・フェストのスペックスセイバーズ新人小説賞、英国推理作家協会賞（CWAダガー賞）翻訳部門を受賞し、いずれも日本人として初めての快挙となった。秋にはアメリカのラムダ文学賞LGBTQ+ミステリー部門の最終候補にも選出。他の著書に『完璧じゃない、あたしたち』『君の六月は凍る』『他人屋のうれしい』『父の回数』、エッセイ集『カラダは私の何なんだ?』『40歳だけど大人になりたい』などがある。



サム・ベット  
Sam Bett

1986年生まれ。日本文学翻訳家。マサチューセッツ大学アムハースト校を日本文学と英文学の優秀賞を授与され卒業。2015年、第2回JLPP翻訳コンクール最優秀賞受賞。訳書に、西尾維新『刀語』、太宰治『道化の華』『乞食学生』、中村文則『その先の道に消える』ほか、三島由紀夫『スタア』で2019-2020日米友好基金日本文学翻訳賞受賞。デビッド・ボイドとの共訳で川上未映子『夏物語』、『ヘヴン』、『すべて真夜中の恋人たち』他多数。『ヘヴン』は2022年ブッカー国際賞最終候補に。2025年王谷晶『パパヤガの夜』英訳The Night of Baba Yagaは英国推理作家協会賞（ダガー賞）ほか複数のミステリー賞を受賞した。翻訳活動の他に、Us&Them 共同代表として文芸翻訳の朗読会やワークショップの企画等なども実施。

## モデレーター



鴻巣友季子  
Konosu Yukiko

1963年、東京生まれ。1995年、BABEL国際翻訳大賞BABEL新人賞受賞。1998年、トマス・H・クック『緋色の記憶』でBABEL国際翻訳大賞ミステリー部門受賞。現代文学の紹介と共に古典新訳にも力を注ぎ、訳書は百数十冊に上る。主な訳書にエミリー・ブロンテ『嵐が丘』、ヴァージニア・ウルフ『灯台へ』（すべて新潮文庫）、J・M・クッツェー『恥辱』、クレア・キーガン『ほんのささやかなこと』、マーガレット・アトウッド『昏き目の暗殺者』（すべて早川書房）、アマンダ・ゴーマン『わたしたちの登る丘』（文藝春秋）など。主な著書に、『文学は予言する』（新潮社）、『翻訳ってなんだろう?』『翻訳教室はじめの一步』（すべて筑摩書房）、『小説、この小さきもの』（朝日新聞出版）、『日本文学はなぜ英米で人気があるのか』（早川書房）など、文芸評論や翻訳論にまつわる著書も多数。青山学院大学などで長年翻訳の教鞭をとり、後進の指導に当たっている。



## 特別ビデオメッセージ: ポリー・バートン Polly Barton

イギリス在住の日英翻訳家。2012年、第1回JLPP翻訳コンクール最優秀賞受賞。柚木麻子『BUTTER』の翻訳は、イギリスの代表的な書店チェーンWaterstonesの「Book of the Year 2024」に選出。

## シンポジウム第Ⅱ部

# 文芸のポテンシャル ～作家と語るグローバルビジネスのフロンティア～



桐野夏生  
Kirino Natsuo

石川県金沢市出身。1998年『OUT』で第51回日本推理作家協会賞、1999年『柔らかな頬』で第121回直木賞、2003年『グロテスク』で第31回泉鏡花文学賞、2023年『燕は戻ってこない』で第64回毎日芸術賞、第57回吉川英治文学賞など多数の文学賞を受賞。2015年秋には紫綬褒章を受章。多くの作品が英語、フランス語、イタリア語、ドイツ語、インドネシア語等に翻訳され、映画化、TVドラマ化されている。国際的評価が高く、現代日本の文学界を代表する作家である。日本ペンクラブ第18代会長。



小川 哲  
Ogawa Satoshi

1986年千葉県千葉市生まれ。2015年「ユートロニカのこちら側」で第3回ハヤカワSFコンテスト大賞を受賞しデビュー。2017年『ゲームの王国』で第38回日本SF大賞、第31回山本周五郎賞を受賞。22年『地図と拳』で第13回山田風太郎賞、翌年同作で第168回直木三十五賞を受賞。その他の著書に『君のクイズ』『火星の女王』など。



森 健一  
Ken Mori

株式会社タトル・モリ エイジェンシー代表取締役社長。文学作品、ノンフィクション、マンガ、児童書を中心に、日本および海外の作品の翻訳出版を通じて国際的な出版ビジネスに携わる。欧米・アジア各国の出版社やエージェンシーと連携し、グローバル市場を見据えた作品展開を行うほか、ムーミン、マクミラン版『不思議の国のアリス』、『ぞうのエルマー』などの作品商品化にも関わり、IPの価値を広げる多角的な展開を手がけている。

## モデレーター



新井 宏  
Arai Hiroshi

1968年生まれ。早稲田大学卒業。株式会社文藝春秋入社。文藝編集者として多くの作家を担当。その後、著作権管理部門に異動。海外への版權輸出業務を担当するようになる。これまでに、村田沙耶香『コンビニ人間』、横山秀夫『64』など多くの作品の英訳出版に携わった。現在、ご遺族より故・松本清張の著作の海外翻訳権の委託をうけ、英語圏をはじめ全世界への紹介をすすめている。文藝春秋ライツビジネス局長。また日本書籍出版協会、日本雑誌協会の著作権委員を務めている。



## 司会進行: 米倉紀之子 Yonekura Kishiko

横浜市生まれ。関西学院大学文学部卒、岡山放送のアナウンサーとして3年間活動後、女優に転身。文学座附属演劇研究所、昂演劇学校を経て、1996年より劇団昂に在籍。

文化庁は、日本文学の優れた翻訳家を発掘・育成することを目的として実施している「第10回文化庁翻訳コンクール」の受賞者を決定し、授賞式およびシンポジウム「国際文芸フォーラム2026」を開催します。

シンポジウムでは、第Ⅰ部に作家の柚木麻子氏、王谷晶氏、翻訳家のサム・ベット氏、第10回審査委員で翻訳家・文芸評論家の鴻巣友季子氏が登壇し、作者と翻訳者の共鳴力をテーマに議論を深めます。第Ⅱ部では、作家の桐野夏生氏、小川哲氏、タトル・モリ エイジェンシーの森健一氏、文藝春秋の新井宏氏を迎え、「文芸のポテンシャル」をテーマに、作品創作と国際展開の最前線について語り合います。

日本文学や翻訳の第一人者が一堂に会する貴重な機会となりますので、ぜひご参加ください。

**2026.2.12 [THU] 15:00 (14:00開場)**

御茶ノ水ソラシティ カンファレンスセンター  
sola city Hall (2階)

〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台4-6  
・地下鉄千代田線「新御茶ノ水駅」B2番出口直結  
・JR総武線・中央線「御茶ノ水駅」聖橋口徒歩1分  
・地下鉄丸の内線「御茶ノ水駅」1番出口徒歩4分

主催 | 文化庁  
お問い合わせ | 文化庁「活字文化のグローバル展開推進事業」事務局  
E-mail: jppp\_vipo@vipo.or.jp

参加ご希望の方は2月6日(金)までに応募フォームよりお申し込みください。

